

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**(共通)**」
 シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1704		
科目名	英語IV		
担当教員	田中 竹史		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	木 5		
講義室	オンライン	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	総合教育科目		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	7 語学		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>D P 1 - D [市民的素養・市民的教養] 市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。</p> <p>D P 2 - A [日本の精神文化を理解し多様な価値観を受容する姿勢] 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。</p> <p>D P 4 - I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取舍選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>D P 6 - K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。</p> <p>■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (C P) との関連</p> <p>D 1 市民的素養と参加 (10%)</p> <p>A 1 グローバル感覚 (5%)</p> <p>A 2 異文化適応 (5%)</p> <p>I 1 理解・分析と読解 (20%)</p> <p>K 1 ライティング・コミュニケーション (30%)</p> <p>K 2 オーラル・コミュニケーション (30%)</p>		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	<p>■能力開発の目標ステージとの対応</p> <p>※クラスによって、目標となるステージが異なります。</p> <p>3 発展期～4 定着期</p> <p>2 進期～3 発展期</p> <p>1 萌芽期～2 進期</p>		
科目概要・キーワード	<p>英語 II で学修した内容を基に、コミュニケーションスキルの強化を目的とします。発話に必要な個々の発音や発話のメカニズムについて定着させながら、アクティビティ・グループワークを通して、実際の現場に沿った英語に触れます。授業は習熟度別クラス編成により演習形式で実施され、学修の目標設定と到達度確認には TOEIC Bridge L & R IP テストが利用されます。なお、授業を補完するものとして、必要に応じて e-learning を使用します。</p> <p>(キーワード) スピーキング・リスニング・英語コミュニケーション</p>		
授業の趣旨	<p>■副題 Conversation, expressions and pronunciation</p> <p>■授業の目的 4技能(読む・書く・聴く・話す)を使ったアクティビティを通して、高校までに学んだ語彙・文法を復習し定着させるとともに、英語を実際に使用しながら、英語に対する抵抗感や苦手意識を感じずに、コミュニケーションツールとして運用する力(英語運用力)を</p>		

	<p>身につけることを目的とします。また自分の意見を簡潔に述べる練習および発表の機会を設け、次年度の学習に繋がります。</p> <p>■ 授業のポイント より自然な英会話表現の使用を目標とし、学生の身近なテーマを題材にしたトピックを用いた授業を行います。</p>
総合到達目標	<p>■ 一般目標 (GIO) 大学教育において英語でコミュニケーションをとるために、情報を聞き取る様々な方法を実践し、コミュニケーションツールとして基礎的英語を運用する力（特に聞いて理解する力）を修得する。</p> <p>■ 個別行動目標 (SBOs) 1. 日常会話で頻出する基礎的な英単語、英語表現の意味が理解できる。(第1-13回) 2. 英語の基礎的な発音やイントネーションの特徴を聞き取ることができる。(第1-13回) 3. 基本品詞・時制を適切に使用することができる。(第1-13回) 4. 基本的な文型を適切に作ることができる。(第1-13回) 5. 基本的な平叙文、否定文、疑問文を適切に作ることができる。(第1-13回) 6. 作成した英文を元に、自ら発表することができる。(第1-13回) 7. TOEIC Bridgeの出題傾向・構成・各パートの特徴を理解し、各パートで求められる技術を認識する。(第14回、15回) 8. TOEIC Bridgeの問題に取り組み、公式試験と同様の形式・制限時間に慣れる。(第14回、15回) 9. 復習として、授業で取り上げた英文・会話文・表現を読み直し、辞書や参考書等で単語の意味や文法を詳細に調べることができる。(第1-15回)</p>
成績評価方法	<p>(適用ループリック) D1: 10%、A1: 5%、A2: 5%、I1: 20%、K1: 30%、K2: 30%</p> <p>(成績評価手段) ■ 授業内テスト (Written test / Media report) (20%) (評価の観点) 当該単元の理解度を測ります。 (フィードバック方法) 授業内で講評を行い、</p> <p>■ 授業参画度 (Class Interaction/Participation) (30%) (評価の観点) 協力的かつ積極的にアクティビティに参加しているか、講師の指示に従っているか。 (フィードバック方法) 授業内で主に口頭にて適宜フィードバックを行います。</p> <p>■ 授業時間外課題 (Homework) (30%) (評価の観点) 期限内に提出を行ったか、文法・単語・表現について理解しているか、トピックに対して適切な内容を表現しているか、指定されたフォーマットに沿った作成方法および提出となったか。 (フィードバック方法) 授業時間中に解説を行います。</p> <p>■ TOEIC Bridge L&R (20%) (評価の観点) 後期は公式試験の受験とし、スコアを評価します。 (フィードバック方法) 模擬試験の場合は授業時間内に採点を行いスコアを算出します。</p>
履修条件	英語 IIIを同時に履修すること。
履修上の注意点	<p>1. レッスントピックやマテリアルはクラスのレベルと授業の進度により変更になる場合があります。詳細は授業内でお知らせします。</p> <p>2. 必ず新しいテキストを購入すること。また、テキストは毎回の授業に必ず持参すること。</p> <p>3. 講師の指示がない限り、授業内での携帯電話の利用を禁止します。</p> <p>4. 宿題、課題は必ず期限内に実施すること。</p> <p>5. 授業を欠席あるいは遅刻をした場合、宿題・課題等の確認は自分自身で責任を持って行うこと。欠席、遅刻は宿題・課題を完了できなかった理由にはなりません。</p> <p>6. 授業は学生主体で行われるため、間違いを恐れずに積極的に参加すること。</p>
授業内容	
関連科目	英語 I (RMGT/SSCS 1701)、英語 III (RMGT/SSCS 1703)、英語 IV (RMGT/SSCS 1704)
教科書	Andrew E. Bennett、大学英語『グラマー・プラス』、南雲堂、2013、ISBN 978-4-523-17721-0
参考書・参考URL	
連絡先・オフィスアワー	質問には、授業前後の時間に対応します。それ以外の時間帯は教員室へ来ることも可能です。
研究比率	



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.